

東京書籍株式会社

事業内容：教科書を中心に、指導用教材や図書教材、デジタル教科書の製造。また、学力テストなどの評価事業や一般出版事業など幅広く活動している。

創業：116年



代表取締役社長 渡辺 能理夫さん

■長寿の秘訣や大切にされている考えなどをお聞かせください。

毎年、新人研修の際に「善良なる教科書を製造し、低廉に円満にこれを供給するは、わが社本来の使命であります」という代々受け継がれてきた考えを伝えています。社員それぞれが営利事業としての教科書製造というだけではなく、教科書事業というのは社会的責任のある仕事だという自覚を持ち、代々その意識が受け継がれているということが今の東京書籍の歴史を作っているのだと思います。

私たち自身が思っている以上に、東京書籍の教科書を使ったという思い出を話してくださる方が多く、そういったお声や反応を頂けることで社員の自覚が生まれ、成長しているのではないかと思います。

■御社の中のイノベーション事例についてお話伺ってもよろしいでしょうか。

時代が変わると同時に、その時々々の教育環境に適応したイノベーションを重ねています。

1909年に創立した当時は国定教科書を作る会社として、文部省が作った教科書と同じように印刷する翻刻発行が本業でしたが、戦後は国定教科書がなくなり、検定教科書制度への移行に伴い、自分たちで教科書を作らなくてはなくなりました。そこで初めて営業部と編集部を設立し、教科書事業が始まったことが私たちの歴史における一番大きなイノベーションと言え

るかと思います。

そこから事業を拡大していき、国の視聴覚教育の推進にあたって、16ミリフィルムの映画に始まる様々な視聴覚教材を取り入れていきました。

また、1990年代頃から学校にICTを普及させようという政策で、それに対応したパソコンソフトを作る流れもあり、現在はデジタル教科書を製造しています。

ずっとその時々々の学校の環境に対応して新しいものを作ってきました。

■時代と共に大きく変わっていくことが多かったと思いますが、その中で変わらないものと、変わっていくものについてお教えてください。

先ほどお伝えした当社本来の使命の部分は、これからも変わらないと思います。

教科書の作り方や形、届ける方法は変わっていくかもしれませんが、作っている我々がそれをやり遂げる。一人残さずきちんと届けるという想いが一番大事だということはこれからも変わらないです。

一方、デジタル教科書が普及してきたことにより、子どもたちもインターネットを使って自分たちの興味のある分野を深めていくことが出来るようになりました。今までは教科書が学習する内容そのものだったのが、教科書からどんどん外へ広がっています。授業の在り方や教科書の在り方などが変わっていくと同時に、AIやインターネットが及ぼす影響とも向き合いながら、デジタルトランスフォーメーションの取り組みを進め、子どもたちにとってより良い教育を届けられる方法を模索しています。



当社の存在意義「教育と文化を通じて人づくり」